



■ 〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目37-6 稲毛屋ビル504
日本神経科学学会

TEL: 03-3813-0272 FAX: 03-3813-0272
E-mail jnss@mb.newweb.ne.jp

日本神経科学学会理事選挙候補者の募集

日本神経科学学会選挙管理委員会

今期理事会の任期は本年12月末で終了しますので、次期(2005-2007年)理事会のパネル理事(定員15名)を選出するため正会員による選挙を11月に実施します。選挙の候補者(正会員に限る)は立候補した者、正会員によって推薦された者および指名委員会が推薦した者で構成されます。

つきましては立候補(自薦)、会員推薦による候補者を求めます。希望する方は以下の点を記した申込書を9月10日までに事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目37-6 稲毛屋ビル504 日本神経科学学会)あて郵送して下さい。

＊候補者の氏名・所属研究機関・所属するパネル

＊(自薦の場合)本人の署名捺印

(他薦の場合)推薦者(正会員3名以上)の所属・氏名・捺印

なお、会則第7条の規定(連続の再任は2期までとする)によって以下の理事は次期のパネル理事候補者になることはできません。小幡邦彦、金澤一郎、丹治 順、辻省次、津本忠治、遠山正彌、中西重忠、廣川信隆、御子柴克彦、三品昌美、水野 昇、宮下保司、村上富士夫(五十音順)

ただし津本忠治理事は機関誌理事(2006年8月31日まで)、村上富士夫理事は大会理事(2003-2005年)、宮下保司理事は大会理事(2004-2006年)を兼ねておりますので、その任期中は理事会に留まります。

目 次

日本神経科学学会理事選挙候補者の募集	1
Neuro2004大会プログラム決定	2
平成17年度科学研究費補助金審査委員候補者の情報提供について	4
Neuroscience Research の Impact Factor、2.200 となる	4
平成16年度日本神経科学学会奨励賞決定	5
第6回時実利彦記念賞について	5
- 研究室紹介 - 「晴天、桜咲き、笑みこぼれる。」	6
シンポジウム・研究会のお知らせ	7
公募	12
その他	17
編集後記	17

Neuro2004大会プログラム決定

今年の日本神経科学学会大会(日本神経化学会との合同大会)の会期もいよいよ2ヶ月後にせまって参りました。お陰様で約2000名の方に事前登録をいただき、1300題の演題のご登録をいただきました。このニュースが皆様のお手元に届く頃には、演題をご登録いただきました会員の皆様にご発表の日程の連絡が届いていることと思います。また全体の日程につきましては下記の通りとなっております。プログラムに関しましては8月半ばに発送する予定ですが、準備が出来次第、学会のウェブサイト <http://www.congre.co.jp/neuro2004/> にも掲示いたします。多数の皆さまのご参加をお待ちしております。

第27回日本神経科学学会大会会長 村上富士夫

市民公開講座：「知られざる脳機能 ～その解明と応用～」

会場：大阪国際会議場 5階 大ホール

会期：9月20日(月) 13:00～16:30

講師(敬称略)：

1. 養老 孟司(北里大学大学院医療系研究科 医療人間科学群)
「脳の不思議」
2. 武田 雅俊(大阪大学大学院医学系研究科 神経機能医学講座)
「心の不思議」
3. 川人 光男(ATR 脳情報研究所)
「脳の情報処理の不思議」

9月21日(火)	午 前	午 後
特別講演	Dr. Wolfram Schultz (University of Cambridge) “Reward, prediction and uncertainty”	Dr. David Julius (University of California, San Francisco) “From peppers to peppermints: An emerging molecular logic of thermosensation”
プレナリー レクチャー		Dr. Peter St. George-Hyslop (University of Toronto) “Molecular biology and genetics of Alzheimer disease”
シンポジウム (オーガナイザー： 敬称略)	行動の多様性の分子基盤(山元大輔、八木健) 脳機能発達における遺伝子発現とその障害：自閉症LD, ADHDなど原因研究と内分泌かく乱物質(田代朋子、黒田洋一郎) シナプス可塑性研究の新しい潮流－短期可塑性から長期可塑性へ(小倉明彦、藤井聡) 脳と生殖：生殖の中枢制御機構をめぐる神経生物学(岡 良隆、前多敬一郎) 神経変性疾患克服へ向けて－若手研究者たちの挑戦(永井義隆、小野寺理)	脳機能イメージングにおける Neurovascular Coupling の意義(精山明敏、関 淳二) 情動と社会性のニューロイメージング(加藤進昌、川島隆太) RNA神経生物学：ニューロンにおける転写後の世界(武井延之、岡野ジェイムス洋尚) 局所回路ネットワークとしての孤束核複合体－発生・発達から機能分子まで(加藤総夫、佐藤容子) モデル脳領域(小脳とキノコ体)に着目した分子から行動までの脳機能解析(伊藤悦朗、川原茂敬)
その他	神経化学会評議員会	時実賞受賞講演

9月22日(水)	午 前	午 後
特別講演		藤田哲也先生 (Louis Pasteur Center for Medical Research) “ The multipotent stem cell of the CNS, the matrix cell, and the molecular mechanism of corticogenesis ”
プレナリー レクチャー		Dr. Mu-Ming Poo (University of California, Berkeley) “ Spike timing dependent plasticity of neural circuits ”
シンポジウム (オーガナイザー ：敬称略)	初期視覚野研究の最前線 (佐藤宏道、大澤五住) 大脳皮質の細胞構築制御 (佐藤 真、仲嶋一範) 報酬と目標に基づく行動選択の神経機構 (木村 實、虫明 元) 家族性アルツハイマー病原因遺伝子(APPおよび Presenilin)によるアミロイドβ蛋白産生および神経機能調節機構について (駒野宏人、鈴木利治) 疼痛メカニズム探求の新展開 (野口光一、富永真琴) 成体脳で起こるニューロン新生 (石 龍徳、久恒辰博)	脳の機能的左右差の起源と進化 (岡本 仁、中村 俊) 単一細胞レベルの神経発生 (松崎文雄、貝淵弘三) 遺伝子操作動物解析法の新しい展開 (齋藤尚亮、饗場 篤) 脳の発達障害と行動異常 (増尾好則、石堂正美) 神経システムにおけるゆらぎとノイズーその機能と役割ー (甲斐昌一、村田 勉)
その他	日本神経科学学会総会、時実賞授賞式	Neuro2004懇親会
9月23日(木)	午 前	午 後
プレナリー レクチャー		Dr. Michael M. Merzenich (University of California, San Francisco) “ Brain plasticity contributing to developmental and adult disabilities, and to their effective therapeutic treatments ”
シンポジウム (オーガナイザー ：敬称略)	認知障害モデル動物とその分子メカニズム；統合失調症との関連 (那波宏之、宮川剛) 中枢神経におけるコレステロールの生理的意義とアルツハイマー病発症機構に果たす役割 (道川 誠、Frank W. Pfrieger) 選択的シナプス強化・除去の分子機構 (狩野方伸、高橋正身) 精神神経疾患の分子基盤と治療戦略 (日本神経化学会・日本生物学的精神医学会 合同シンポジウム)(御子柴克彦、武田雅俊) 薬剤による神経保護療法の現状と展望 (丸山和佳子、新田淳美) 糖鎖修飾と神経可塑性 (平林義雄、加藤啓子)	脊髄損傷の神経修復 (岡野栄之、西尾健資) 高次脳機能発達障害の分子神経生物学的基盤 (湯浅茂樹、大隅典子) 脊椎動物中枢神経系形成のダイナミズム (仲村春和、渡邊裕二) 脳の社会適応化機構：環境・ホルモン情報と遺伝情報の統合と破綻 (筒井和義、河田光博) 脳神経系のD-アミノ酸：機能と病態 (西川 徹、白澤卓二) デルタ2受容体の10年ー最近の展開 (柚崎通介、三品昌美)
その他	日本神経化学会総会	

The 5th Asian & Oceanian Epilepsy Congress in Bangkok

5月号でもお知らせしましたが、the 5th Asian & Oceanian Epilepsy Congressが本年の8月28日から31日まで、タイのバンコクにて開催されます。詳細は<http://www.epilepsybangkok2004.org/>を御覧ください。

平成17年度科学研究費補助金 審査委員候補者の情報提供について

学会長 小幡邦彦

従来、科学研究費補助金(日本学術振興会担当分)の審査委員については、日本学術会議が関連学会に候補者(審査委員の2倍)の推薦を依頼し、学会が推薦した候補者のうちから日本学術会議が審査委員を選定していました。日本神経科学学会では推薦する候補者を正会員による選挙(郵便投票)によって選出してきました。今回、学術会議の改革の一環として、学術会議は審査委員の選定は行わないことになり、代わって審査委員として適切な研究者の情報を収集することになりました。学術会議から本学会はその情報提供が依頼されました(従来推薦を依頼されていた分科、細目について、審査委員の3倍前後の人数)。本学会では理事会で審議の結果、従来どおりの会員選挙によって選出することにして、指名委員会が指名した選挙候補者(選出者の約3倍)につき、3月1-16日に正会員による選挙をおこないました。開票結果にもとづき、以下の方を学術会議に情報提供しましたので、ご報告いたします。なお得票数等の開票結果をお知りになりたい会員は学会事務室山根慶子に電子メール(アドレス jnss@mb.newweb.ne.jp)でお問い合わせ下さい。

(分科)神経科学第2段審査委員候補者

御子柴 克彦、津本 忠治、村上 富士夫

(分科)神経科学(細目)神経科学一般第1段審査委員候補者 岡野 栄之、森 憲作、狩野 方伸、藤田 一郎、仙波 恵美子、木村 實、八木 健、金子 武嗣、岡部 繁男、白尾 智明、ヘンシュ 貴雄、河西 春郎、大隅 典子、渡辺

恭良、河野 憲二、玄番 央恵、高田 昌彦、平野 丈夫

(分科)情報学

(細目)感性情報学・ソフトコンピューティング
(分割A)感性情報学第1段審査委員候補者 中田 力、合原一幸

(細目)認知科学 第1段審査委員候補者 田中 啓治、泰羅 雅登

(細目)生体生命情報学(分割A)生物情報科学
第1段審査委員候補者 谷藤 学、深井 朋樹
第2段審査委員候補者 倉田 耕治

(細目)生体生命情報学(分割B)生命体システム
情報学 第1段審査委員候補者 藤田 一郎、船橋 新太郎

Neuroscience Researchの Impact Factor、2.200となる

先日発表されたISI Journal Citation Reportsによると2003年のNeuroscience Research (NSR)のImpact Factor (IF)は2.200でした。過去6年間、1台でしたのでようやく低迷を脱しつつある感が致します(表1)。以前に本ニュースで述べましたようにIFは掲載論文の質を保証するものではありません(Impact Factor 一誤用のネガティブインパクト。神経科学ニュース2002, No 1, 4-8頁)。また、研究分野によって研究者人口、論文の数、1論文当たりの著者の数、引用の様態等に大きな違いがあり異なった分野間での比較には問題があります。しかし、IFはジャーナルの研究者コミュニティにおけるvisibility、注目度、を示す一つの指標であることは間違いありません。その意味でIFがかなり上昇したことは嬉しいことだと感じています。ただ、2.200が満足すべき値でないことは勿論で、近い将来同じように学会を母体として出版されているJournal of Neuroscience (2003年は8.306)やEuropean Journal of Neuroscience (2003年は3.872)に対抗できるジャーナルにしたいと思っています。

2003年のIF値が上昇した理由の一つに2002年にNSRに出た論文が2003年に他誌によく引用されたことがあります。この傾向は2004年に続いています。また、2003年のNSRには非常に良い論文が多数出ていますので、来年のNSRのIF値はさらに大幅に上昇するものと思っています。

現在、NSRの採択率は50%を切っており、先日NSRの査読はかなり厳しいとの噂を耳にしました。査読がかなり厳しいことは事実ですが、日本からの投稿論文に限って言えば採択率はそんなに低いことはありません(投稿数は海外から約6割で国内からの方が少数)。また、原稿が到着してから最初のコメントをお返しする期間も、一部の例外を除いて、一ヶ月以内となっています。ただ、1回だけでなく2回、3回と改訂を要求される場合があり、厳しいという評価に繋がっているのかも知れません。これは論文を磨き上げるために査読者、Receiving Editorが払っている前向きの努力でして、その結果論文が非常に良くなったとの評価を一部の著者から得ています。

上述した2003年のIF値は会員の多くの方がご存知のMolecular Brain ResearchやNeuroscience Lettersよりも高い値となっています。また、本年末のElseviersとの契約更改を機会に2005年より誌面構成をさらに改善し、出版までの時間のさらなる短縮を図ります(詳細は、後日別にご報告します)。会員の皆様におかれましては、優先順位の高いジャーナルとして、是非優れた論文を投稿下さるようお願い致します。

津本忠治、Neuroscience Research 編集主幹

表1 NSRのImpact Factor

1991, 1.660	1992, 1.978
1993, 2.059	1994, 2.141
1995, 2.165	1996, 2.102
1997, 1.523	1998, 1.775
1999, 1.726	2000, 1.807
2001, 1.770	2002, 1.812
2003, 2.200	

平成16年度日本神経科学学会 奨励賞決定

平成16年度日本神経科学学会奨励賞受賞者は下記の5名に決定しました(括弧内は所属と申請課題)

大須 理英子 博士

(ATR脳情報研究所、動的環境下での運動学習における高次認知機能の役割)

澤本 和延 博士

(慶応義塾大学医学部、中枢神経系前駆細胞の可視

化・分離・移植技術の開発と生物学的性質の解析)

中原 裕之 博士

(理化学研究所・脳科学総合研究センター、理論と実験を融合したシステム神経科学研究)

橋本 浩一 博士

(金沢大学大学院医学系研究科、シナプス間競合による機能的神経回路形成に関する研究)

宮田 麻理子 博士

(自然科学研究機構・生理学研究所、中枢神経系における異種シナプスの相互作用機構)

第6回時実利彦記念賞を 松沢哲郎教授に

時実利彦記念賞を松沢 哲郎 京都大学霊長類研究所教授(53歳。研究業績:チンパンジーの高次認知機能の実験的解析)が受賞されることに決定しました。

第27回日本神経科学大会(Neuro 2004)において、9月21日16:00-17:00に受賞記念講演が行われます。22日12:30-13:30の総会において、総会議事にひきつづいて授賞式が行われます。

以上

時実利彦氏の略歴

明治42年9月4日 岡山県和気郡備前町香登西338に生まれる

昭和9年3月 東京帝国大学医学部医学科卒業

昭和18年6月 東京帝国大学医学部生理学教室助手

昭和23年4月 東京大学講師

昭和29年1月 東京大学助教授

昭和29年8月 カルフォルニア大学ロスアンゼルス校解剖学教室留学

昭和31年11月 東京大学教授(医学部脳研究施設生理学部門)

昭和37年4月 東京大学医学部脳研究施設長

昭和42年7月 京都大学霊長類研究所教授併任

昭和45年4月 京都大学教授

昭和45年5月 東京大学名誉教授

昭和48年4月 京都大学定年退官

昭和48年7月 勲二等瑞宝章受賞

昭和48年8月3日 逝去 従三位受賞

主な著書

脳の話 岩波書店(新書) 初版1962年(現63版)
人間であること 岩波書店(新書) 初版1970年
(現55版) 脳と人間 雷鳥社 初版1968年
以上

時実利彦記念賞受賞者一覧

第1回

平成11年度 時実利彦記念賞

順天堂大学医学部 彦坂 興秀 教授

特別賞 富山医科薬科大学 小野 武年 教授

第2回

平成12年度 時実利彦記念賞

東京大学医学部 宮下 保司 教授

特別賞 東北大学大学院医学研究科 丹治 順 教授

第3回

平成13年度 時実利彦記念賞

A T R 川人 光男 プロジェクトリーダー

//

京都府立医科大学医学部 木村 實 教授

特別賞 東京女子医科大学脳神経センター

岩田 誠 所長

第4回

平成14年度 時実利彦記念賞

理化学研究所脳科学総合研究センター

田中 啓治 グループディレクター

第5回

平成15年度 時実利彦記念賞

カリフォルニア工科大学 下條 信輔 教授

第6回

平成16年度 時実利彦記念賞

京都大学霊長類研究所 松沢 哲郎 教授

任いたしました。

以下に、略歴を記します。東大・医・脳研(当時)にて高橋國太郎先生のご指導の下、博士課程を過ごしました。1989年に学位取得後、東京都神経研・神経生理部門にて、ほぼ10年間過ごしました。その間、UCSFのLily Jan先生の研究室に2年間留学しました。その後、2000年より東京医歯大・医・第二生理学講座を担当し、この度、生理学研究所に異動しました。

博士課程1年時、生理研をはじめて訪問した時に受けたインパクトは未だに忘れられません。まず、正門のスロープのところで、「まるでお茶の水博士が鉄腕アトムを創り出しているところみたいだ。」と思いました。生理研の建物の第一印象は「骨太!」でした。最新の研究設備の並ぶ研究室や大型の工作機器の揃った部屋、立派な水槽のある動物室なども、まるで別世界のような感じでした。岡崎の街を見おろす眺望がすばらしく、夕焼けがきれいだろうなあと感じたのをよく記憶しています。このようにして、生理研は、憧れの場所として心の中に深く刻みこまれました。その後、時代の流れと共に、財政等の状況は変わっても、最初に「刷り込まれて」しまった個人的印象には今も変わりありません。

僕は、これまで一貫して、興奮性細胞とその機能素子についての細胞・分子レベルでの研究に取り組んできました。留学前までは「分化とイオンチャンネル」をテーマとし、留学後は、研究室のメンバーと共に「イオンチャンネル・受容体の構造機能連関と機能修飾機構」について研究を進めてきました。今後、新しい研究手法を取り入れて、イオンチャンネル・受容体・G蛋白質等の機能素子群の持つ精妙な分子機能のメカニズムと状況依存的な動的構造変化に関する研究を発展させていくと共に、専門の方々と連携させていただきながら、各素子の持つ特性の脳神経系における機能的意義を知るための個体レベルでの研究にも取り組んでいきたいと思っています。このような願いを込めて、4月に部門名を、神経機能素子研究部門、Division of Biophysics and Neurobiologyと改称させていただきました。部門の伝統の重みをかみしめつつ、さらなる発展を目指したいと思います。

写真は、研究室メンバー全員の集合写真です。前列左から、岩井君(院博)、長友君(院修)、立山君(助教授)、山本さん(技官)、後列左から、久保、中條君(ポスドク)、三坂君(助手)、藤原君(ポスドク)で

- 研究室紹介 -

「晴天、桜咲き、笑みこぼれる。」

自然科学研究機構・生理学研究所
神経機能素子研究部門 久保 義弘

この度、2003年12月1日付けで、江橋節郎先生、小幡邦彦先生が研究室の方々と共に築いて来られました生理学研究所・神経化学研究部門に着

す。長友君が「2004年4月1日、晴天、桜咲き、笑みこぼれる。」というタイトルをつけてホームページ (<http://www.nips.ac.jp/biophys>) にアップしてくれました。まさにそんな瞬間でした。

この時の思いを忘れずに、どこまでも成長を目指す心と、与えられた環境に感謝する気持ちの両方を持って日々を過ごしていきたいです。そして、自分自身が一研究者としてサイエンスを楽しむと共に、研究室のメンバーが自然に成長していける場でありたいと願っています。それが、これまでお世話になった方々に対するご恩返しであり、自分がなすべきことだと思っています。自分に残された創造的時間が決して長くはないことを自覚し、どこか気楽さ

を持ちつつも、魂を込めて、ひとつひとつの季節を燃え尽きるように生きていきたいと思う今日この頃です。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



INFORMATION

シンポジウム・研究会



第34回(2004)新潟神経学 夏期セミナー

期日:7月29日(木)～31日(土)

場所:新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センターセミナーホール

主催:新潟大学脳研究所 新潟脳神経研究会

プログラム

7/29(木) 9:30～16:30 部門見学

分子神経生物学 (10:00-16:00) ニューロンの初代培養とウイルスベクターによる遺伝子導入 (8名)

細胞神経生物学 (10:30-16:00) ES細胞を用いた遺伝子操作マウス作成の実際 (6名)

システム脳生理学 (10:00-16:00) 大脳皮質感覚野の機能イメージングと高次機能 (8名)

病理学 (9:30-12:00) Brain Cutting:自分の目で病変を見つけてみよう! (10名)

(13:30-16:30) 組織検討会 (標本の見方と鑑別診断)、教室紹介

分子神経病理学 (10:00-16:00) PCR法によるDNA合成実習と研究紹介 (8名)

脳神経外科学 (10:00-16:00) 脳神経外科手術見学 (8名)

神経内科学 (10:00-16:00) 一体験入局:ベッドサイドからラボまで (10名)

統合脳機能研究 (10:00-16:00) 脳の機能を見る(MRI・脳波を用いた非侵襲的機能解析)(10名)

遺伝子実験 (10:00-15:00) MS & SNP解析 (6名)

動物資源開発 (9:30-16:00) マウス胚の操作:体外受精(午前)と凍結保存(午後)(6名)

7/30(金) 9:00～19:00 神経機能保護と再生 司会:西澤正豊(新潟大・脳研)

9:00～12:00 神経機能保護

9:00-10:00 核酸の酸化損傷 / 中別府雄作(九大・生医研)

10:00-11:00 脳虚血 / 桐野高明(東大・医)

11:00-12:00 HGF / 船越 洋(阪大・医)

13:00～19:00 神経再生

13:00-14:00 軸索再生 / 山下俊英(千葉大・医)

14:00-15:00 細胞系譜制御 / 田賀哲也(熊本大・発生研)

- 15:30-16:30 幹細胞創薬 / 桜田一洋(協和発酵)
 16:30-17:30 脊髄再生 / 岡野栄之(慶應大・医)
 17:30-18:30 運動神経再生 / 木山博資(阪市大・医)
 18:30-19:00 総合討論
 19:00 ~ ビアパーティー

7/31 (土)

- 9:00 ~ 12:00 疾患モデル動物
 9:00-10:00 小児型神経ジストロフィー / 橘正芳(新潟大・脳研)
 10:00-11:00 精神発達障害とARX / 北村邦夫(精神・神経センター)
 11:00-12:00 疾患モデル開発 / 横山峯介(新潟大・脳研)
 13:00-14:30 脳機能とグリア / 工藤佳久(東京薬大・生命)
 14:30-16:00 聴覚情報の特徴抽出神経回路 / 大森治紀(京大・医)

受講申込方法

受講料(一般 10,000 円、院生 5,000 円、学生 2,000 円)を郵便振替(口座番号:00520-1-45943、加入者名:新潟脳神経研究会)でお送りください。その際、通信欄に、所属、連絡先を明記し、

- ・1日のみの受講希望者は日を指定し、上記の半額をお送り下さい。
 - ・部門見学の希望者は希望部門名を記入して下さい。定員になり次第締め切ります。
- 申込先 〒951-8585 新潟市旭町通1-757 新潟大学脳研究所 神経学夏期セミナー事務局
 (TEL:025-227-0606, FAX:025-227-0814, E-mail:rsato@bri.niigata-u.ac.jp)
- 参加資格は問いませんが、学部卒後の若い研究者、医師、学生等を歓迎します。
 - 本セミナーは、日本脳神経外科学会生涯教育クレジット、及び日本神経学会認定医更新取得単位の対象となります。



特定領域研究「先端脳」 夏のワークショップのご案内

テーマ: Genes and Cognition (part 3)

日程:平成 16 年 8 月 23 日(月曜日)13:00-18:00

場所: NASPAニューオータニ

新潟県南魚沼郡湯沢町湯沢 2117-9
 (TEL 0257-80-6111)

13:00-13:10 開会の辞

13:10-14:00 BDNF 多型とヒトの海馬機能:
 小島正巳(産業技術総合研究所)

14:00-14:50 躁うつ病の分子基盤:
 加藤忠史(理化学研究所・BSI)

14:50-15:40 「文法遺伝子」は本当にあるのか:
 酒井邦嘉(東京大学)

15:40-16:10 コーヒーブレイク

16:10-17:00 フェロモンと嗅覚の記憶の分子機構と遺伝子発現:

梶秀人 (高知大学)

17:00-17:50 マカクザルにおける色識別の神経機構

小松英彦(生理学研究所)

17:50-18:00 閉会の辞



脳と心のメカニズム第5回 夏のワークショップ

「意志決定:心の物質基盤」を開催致します。詳細につきましては、下記のwebをご参照下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

<http://www2.bpe.es.osaka-u.ac.jp/event/summerws2004/index.htm>

日程:平成 16 年 8 月 24 日(火)~ 8 月 26 日

(木)場所:NASPAニューオータニ
 新潟県南魚沼郡湯沢町湯沢 2117-9
 (TEL 0257-80-6111)

ポスター発表申込締切:平成 16 年 8 月 2 日

(月)正午

参加・宿泊申込書締切:平成 16 年 8 月 6 日
 (金)正午

主催: 文部省特定領域研究(C)先端脳(B02, B03 班)
理化学研究所脳科学総合研究センター
ATR脳情報研究所
科学技術振興調整費
日本神経回路学会
科学技術振興機構CREST「脳を創る」領域
科学技術振興機構CREST「脳を知る」領域
21世紀型革新的先端ライフサイエンス
技術開発プロジェクト
21世紀COEプログラム「全人的人間科学
プログラム」

■ 8月24日(火)

19:00-21:00 ポスターセッション

■ 8月25日(水)

スペシャルセッション

意志決定:心の物質基盤 【座長 木村實】

09:00-10:00 Decisions, Uncertainty, and
the Brain
Paul Glimcher
(New York University)

10:00-10:20 Break

10:20-11:20 The neuropsychopharmacology
of emotional processing in
social and non-social choice

Robert D. Rogers
(University of Oxford)

11:20-11:40 Break

11:40-12:40 The role of the medial
frontal cortex in task
control and decision making
Matthew F.S. Rushworth
(University of Oxford)

午後 セッション1

最適報酬、ゴール 【座長 丹治順】

14:00-15:00 Parallel networks for reward
prediction at different
time scales.
銅谷賢治(ATR)

15:00-15:20 Break

15:20-16:20 前頭前野内側部:目標に基づい
た行動選択と行動評価
松元健二(理化学研究所)

16:20-16:40 Break

16:40-17:40 パスプランニングにおける前頭
前野のゴール表現
虫明 元(東北大)

19:00-21:00 ポスターセッション(2時間)

■ 8月26日(木)

午前 セッション2

面の認知 【座長 小松英彦】

9:00-10:00 面の知覚における頭頂葉の役割
泰羅雅登(日本大学)

10:00-10:20 Break

10:20-11:20 側頭葉視覚経路の両眼立体視に
おける役割
藤田一郎(大阪大学)

11:20-11:40 Break

11:40-12:40 面の補完、残効と feature
binding
下條信輔(CALTECH)



第12回日本発汗学会総会 のご案内

1. 会頭:坂口正雄(長野工業高等専門学校電子
制御工学科教授)
2. 会期:平成16年8月27日(金)・28日(土)
3. 会場:長野市若里市民文化ホール
(JR長野駅東口よりバスにて15分、タク
シー 10分、徒歩25分)
〒380-0928 長野市若里3-22-2
TEL 026-223-2223
4. プログラム
 - 1)特別講演:「発汗測定の新技術」
演者:戸川達男先生
(早稲田大学人間科学部特任教授)
 - 2)オーガナイズセッション:「無汗症の臨床」
オーガナイザー
二瓶健次先生
(国立生育医療センター神経科)
田村直俊先生(埼玉医科大学神経内科)
 - 3)一般講演:口演8分、討論4分を予定してお
ります。
 - 4)ポスター講演:ポスター展示の他に1枚の
OHPシートによる口演(1~2分)を予定してい
ます。
 - 5)一般公開講座:
「汗にまつわる健康の話」
講師 大橋俊夫先生(信州大学医学部長)
「発汗と温泉の効用」
講師 飯島裕一先生(信濃毎日新聞編集委
員)
 - 6)機器展示:協賛企業の機器展示
5. 演題募集:一般演題を募集いたします。発
汗学綴りの抄録用紙および採否・受領はがき
に必要事項を記入の上、総会事務局(下記)ま
でお願いいたします。なお、メールによる演
題申し込みも受け付けます。メールによる受
付の場合は、「所属」「氏名」「連絡先(メール

アドレスを含む)」および「発表区分(口演およびポスター)」を記入の上、抄録をテキストにて本文中に記入して総会事務局までメールにて送付して下さい。演題受付、演題採否通知はメールにて返送いたします。

6. 総会事務局:〒381-8550 長野市徳間716
長野高専電子制御工学科 小野伸幸

TEL/FAX 026-295-7070(ダイヤルイン)
E-mail:ono@ec.nagano-nct.ac.jp

7. 演題締切り:平成16年6月28日(月)必着

8. 応募資格:演者・共同演者は日本発汗学会員に限ります。非会員は下記学会事務局まで入会の申し込みをお願いいたします。

9. 日本発汗学会事務局:

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
信州大学医学部器官制御生理学教室内
日本発汗学会 事務局

TEL 0263-37-2597 FAX 0263-36-5149

第12回日本発汗学会総会の詳細については下記URLをご覧ください。

<http://ecweb.nagano-nct.ac.jp/JSPR12/>

その他:*入場無料・予約なし・当日会場先着順(定員 630名)

ご来聴の方には、後日講演記録を進呈いたします。

問合せ先 :

財団法人 東レ科学振興会

千葉県浦安市美浜一丁目8番1号

Tel: 047-350-6103 Fax: 047-350-6082

E-mail : jk.tsf@nifty.com

URL:<http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>



第54回 科学講演会開催計画

主催:財団法人 東レ科学振興会

後援 朝日新聞、日本細胞生物学会、日本植物学会、日本進化学会、(予定) 日本動物学会、デュボン

とき : 平成16年9月17日(金)

開場:15時30分

開演:16時00分

終演:19時00分

ところ: 有楽町朝日ホール

東京都千代田区有楽町2-5-1

有楽町マリオン11階(JR有楽町駅前)

テーマ: 私たちの細胞はどのようにして生まれたか

I. 細胞の中に入った細胞

放送大学教授 石川 統

II. ミトコンドリアと葉緑体はどこからきたか

立教大学理学部生命理学科教授

黒岩 常 祥



千里ライフサイエンス セミナー

「ヒト安全性予測システムの現状と今後の展開:ヒト SNP・蛋白質解析、動物モデル、in silico 解析」

日時:平成16年9月28日(火)10:00～17:15

場所:千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール

着眼点:薬物療法は現代医療の中心的な治療法である。安全・安心で有効な薬物療法の確立のためには、重篤な副作用をさけることが必須である。また、薬物開発においても心臓不整脈や肝障害などの副作用の出現がその薬物にとって致命的となることが知られている。

本セミナーにおいては、ゲノム・蛋白の網羅的解析、動物モデル、in silico 解析など、様々な方法によるヒトにおける薬物の安全性がどこまで予測できるか、また、今後どのように研究を進展させるべきかを考える。

コーディネーター:

大阪大学大学院医学系研究科 教授 倉智 嘉久

東京大学医学部附属病院薬剤部 助教授 鈴木 洋史

プログラム:

1. 新医薬品の安全性予測と臨床試験のあり方

東京都多摩老人医療センター 名誉病院長、
医薬品医療機器総合機構 顧問 上田 慶二

2. トキシコゲノミクスプロジェクトの特徴

と進捗

国立医薬品食品衛生研究所 所長 長尾 拓
3. 新しいたんぱく質科学の構築を目指して
創薬プロテオームファクトリー

プロジェクトリーダー 松尾 壽之

4. トランスポーターを利用した医薬品誘発副
作用の回避:in vitro 実験、遺伝子改変動物
を用いた in vivo 実験に基づく予測

東京大学大学院薬学系研究科 教授 杉山 雄
一

5. PETによる薬物動態解析—¹¹C-phosgeneによる
標識薬剤合成装置

大阪大学大学院医学系研究科 教授 畑澤 順

6. 薬物動態・安全性試験におけるヒト肝細胞
キメラマウスの有用性

金沢大学大学院医学系研究科 教授 横井 毅

7. 特異体質性の薬物毒性発現機構に関する考
察

三共株式会社薬剤動態研究所 所長 池田
敏彦

8. ヒト臓器・組織を用いた安全性評価システ
ムの開発

大阪大学大学院医学系研究科 教授 野村 大
成

9. タンパク質の表面物性の類似性にもとづく
機能予測

大阪大学蛋白質研究所 客員助教授 木下 賢
吾

10. 薬物による心臓副作用 in silico 予測
大阪大学大学院医学系研究科 教授 倉智 嘉
久

定員:300 名

参加費:

会員(大学・官公庁職員、当財団の賛助会
員)3,000 円、

非会員 5,000 円、学生 1,000 円

申し込み要領:

(1)氏名、〒、所在地、勤務先、所属、電話およ
びFAX番号を明記の上、郵便、FAX又はE-mail
で下記宛お申込み下さい。

(2)事務局より受付の通知を返送いたしますの
で、通知書に記載した振込先口座に参加費をお
振込み下さい。

(3)入金を確認後、通常2週間以内に領収書兼参

加証をお届けいたします。

申込先: (財)千里ライフサイエンス振興財団
セミナー(U2)事務局

〒560-0082

大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8F

TEL:06-6873-2001 FAX:06-6873-2002

E-mail:fujisawa-lsf@senri-lc.co.jp



第13回日本バイオ イメージング学会学術集会 のご案内

会期: 平成16年11月5日(金)ー7日(日)

公開シンポジウム:11月5日(金)午後1時-5時

「光による生体機能の計測と操作」

学術集会:11月6日(土)ー7日(日)

シンポジウム「光学顕微鏡によるナノバイオ
テクノロジー」

シンポジウム「医療とバイオイメージング」

会場:京都府立医科大学 図書館ホール・基礎
医学学舎講義室

〒602-8566

京都市上京区河原町広小路梶井町465

(市バス府立医大病院前 徒歩1分)

主催: 日本バイオイメージング学会

大会長: 高松 哲郎(京都府立医科大学大学
院医学研究科教授)

副大会長: 濱岡 建城(京都府立医科大学大
学院医学研究科教授)

参加費:公開シンポジウム: 無料

学術集会: 正会員:5,000 円、

学生会員:3,000 円、非会員:7,000 円

演題申込締切: 7月16日

詳細はホームページを御覧下さい [http://
www2.kpu-m.ac.jp/~pcr/bioimaging](http://www2.kpu-m.ac.jp/~pcr/bioimaging)

連絡先: 第13回日本バイオイメージング学
会大会 総務 小山田 正人

〒602-8566

京都市上京区河原町広小路梶井町 465

京都府立医科大学大学院医学研究科

細胞分子機能病理学

Tel. 075-251-5322 Fax. 075-251-5353

E-mail: bioimage@koto.kpu-m.ac.jp

研究科ホームページ:

<http://www.lsse.kyutech.ac.jp/>入試情報: http://www.brain.kyutech.ac.jp/~hanazawa/nyushi_events.html入試日程: http://www.lsse.kyutech.ac.jp/lsse_j/juken_nittei.html

COE スチュデント制度:

<http://www.brain.kyutech.ac.jp/coe21/coe-student.html>

連絡先:

花沢 明俊(入試担当)

九州工業大学大学院生命体工学研究科

脳情報専攻 高次脳機能講座

〒808-0196

北九州市若松区ひびきの2-4

TEL/FAX: 093-695-6111

EMAIL: hanazawa@brain.kyutech.ac.jp

公 募

大学院生募集 博士前期・
後期課程

平成16年10月入学、平成17年4月入学

九州工業大学・大学院生命体工学研究科・脳
情報専攻

21世紀COEプログラム研究拠点

「生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界」

当専攻は、脳機能の解明とその未来型情報技術への応用を目標に教育研究を行っています。脳の心理・生理・生物学的研究、脳の数理モデル構築、脳型電子デバイス作成、そのロボットへの搭載といった、脳神経科学と情報工学分野の研究を一カ所で行っていることが特徴です。脳情報工学という新たな学問分野を創出し、介護ロボットや情報バリアフリーなどの、親しみやすくストレスや情報格差の生じない情報化社会への貢献を目指しています。また、21世紀COEプログラム研究拠点として、幅広い知識を持ち未来型情報技術に対応可能な人材育成を行うため、分野の異なる複数の研究室で研究指導を受けるCOE スチュデント教育制度を創設しました。脳研究、脳型情報処理、ロボット等に興味のある方はぜひチャレンジして下さい。

国立精神・神経センタ -
神経研究所疾病研究第三部
第二研究室長
(任期付研究員)公募

国立精神・神経センタ - 神経研究所では、
疾病研究第三部第二研究室長(任期付研究員)
を募集します。

1. 職名及び人数

神経研究所疾病研究第三部第二研究室長 1名
(厚生労働技官、任期付研究員)

2. 職務内容

国立精神・神経センタ - 神経研究所疾病研究第三部第二研究室長として、精神神経疾患の原因解明ならびに治療法の開発。特に、躁うつ病などの機能性精神疾患に関する研究の推進に従事する予定。

3. 応募資格

機能性精神疾患の病態の解明に寄与する分子生物学的 / 細胞生物学的研究に関する十分な知識と技術を有する者で、博士号もしくは同等以上の研究歴を有すること。

4. 任期

採用日から5年間

5. 採用予定年月日

平成17年1月1日

6. 提出書類

(1)履歴書(写真貼付)

(2)業績目録

(原著論文、総説、著書、その他にまとめて下さい。また、学会発表のリストに関しては、国内学会としては特別講演及びシンポジウムやワークショップなどの招待講演のリストを、国際学会としては、シンポジウムなどの招待講演と一般講演に分け、それぞれを明記して下さい。)

(3)主要論文3編の別刷り5部ずつ

(4)従来の研究内容のまとめと将来への抱負(2000字以内)

(5)総長宛の推薦状(機関の長または直属の上司等)

7. 提出締切日

平成16年7月30日(金)

8. 書類送付先

〒187-8551

東京都小平市小川東町4-1-1

国立精神・神経センタ-運営部庶務第一課人事係

TEL:042-341-2711

9. 問合せ先

国立精神・神経センタ-神経研究所疾病研究第三部 功刀 浩

TEL:042-346-1714

FAX:042-346-1744

e-mail:hkunugi@ncnp.go.jp

国立精神・神経センタ-ホ-ムペ-ジ <http://www.ncnp.go.jp/>



宇宙環境利用科学委員会 研究班WGの公募について

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部
本部長 鶴田 浩一郎

平成16年6月21日

JAXA宇宙科学研究本部は宇宙環境を利用

した科学の一層の推進のため、宇宙環境利用科学委員会の下、物質科学、生命科学及び基礎科学の各分野の研究班を設置し、これを構成する研究者コミュニティの活動に対する予算を措置しました。以下に従い、宇宙環境利用科学の意欲的かつ有効な議論と微小重力利用研究計画提案を目指した研究班WGを公募致します。国際宇宙ステ-ションや各種の宇宙実験システムでの微小重力実験を目指した地上研究の実施、落下塔、航空機等の短時間微小重力実験手段、更には、小型ロケット実験、回収衛星、宇宙ステ-ションなどの広範な宇宙環境利用機会を活用した科学研究計画の立案と準備を目的とした活動の提案を求め、将来の宇宙環境を利用した科学諸分野の研究コミュニティの核となる活動に発展することを期待します。

記

1. 公募締切:平成16年8月6日

2. 提案書内容(形式任意)

(1)提案する研究班WGの名称

(2)研究構想或いは研究計画

- 目的、内容、目標など

- 代表者及び構成研究者(分担、所属、連絡先)

(3)必要資金の額とその内訳(主として会議開催のための旅費など、研究計画の立案と準備に要する費用)

なお、研究班を構成する分野として、材料科学、流体科学、燃焼科学、生命科学、基礎物理、基礎化学の各研究領域を対象とします。宇宙環境利用科学委員会にて提案書の内容に基づき評価を行い、遅くとも9月上旬までに選定し、結果を提案代表者に通知いたします。

以 上

提案書送付先:

〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部
研究マネジメント課共同利用係(「研究班WG申し込み」と朱書きしてください。)

なお、メ-ルでの送付もあわせて行って頂けると幸いです。提案書のメ-ルによる送付および

本件問い合わせは下記あてをお願いします。

送信先アドレス:WG

Proposal@surc.isas.jaxa.jp



富山医科薬科大学大学院 医学系研究科 助手 公募

公募人員:助手 2 名

研究内容:グルタミン酸受容体、ドパミン受容体を中心として、C57BL/6由来ES細胞を用いたコンディショナル・ノックアウトマウスを作成し、認知、情動、社会性の分子基盤を明らかにするとともに、病態モデルとして精神・神経疾患の治療につながる研究を行う。
応募資格:脳機能の解析に興味がある方で、1) 分子生物学的研究方法および細胞培養の経験のある方。2) トランスジェニックマウスあるいは遺伝子ノックアウトマウス作成と解析の経験がある方。マウス胚操作の経験があればなおよい。博士号を有する35歳位までの方。本学では任期制が導入されていますので、助手の任期は5年(再任あり)です。

応募方法:1) 履歴書、2) 研究業績リスト、3) 主要原著論文の別刷りまたはコピー、4) これまでの研究の概要と今後の抱負(2000字程度)、5) 推薦書、を郵送あるいはe-mailで下記までお送り下さい。

募集期限:2004年8月20日

赴任時期:採用決定後できるだけ早い時期

書類送付先:富山医科薬科大学 大学院医学系研究科 認知・情動脳専攻 分子神経科学教室 森 寿 (もり ひさし)

〒930-0194 富山市杉谷2630番地 TEL. 076-434-7230, FAX 076-434-5015, e-mail: hmori@ms.toyama-mpu.ac.jp



東京薬科大学生命科学部 分子生命科学科 生体高次機能学研究室 教員公募

職名および人員:教授 1 名

応募要件:生体高次機能学研究室では、脳の構成要素である神経細胞とグリア細胞における細胞内外の情報伝達機構や情報処理機構を、光プロ・ブとコンピュータを使った画像処理の技術を用いて解析している。また、脳機能の損傷とその修復に関わる機構についても研究を進めている。脳や神経の機能の解明を目指して積極的に研究を進めている方で、熱意をもって私立大学における学部および大学院教育を行うことのできる方。現在の研究室の構成:工藤佳久教授(2005年3月退職予定)、宮川博義助教授、森田光洋助手、井上雅司助手

応募書類:(1)履歴書(写真貼付)、(2)研究業績リスト、(3)主要業績の別刷りまたはコピー(10編以内)、(4)現在までの研究概要(2000字以内)、(5)今後の研究と教育に関する理念と抱負(2000字以内)、(6)2名の方からの推薦状(作成者が封をしたものを応募書類に同封)、(7)そのほか選考の参考となる資料(学会活動、科学研究費取得状況など)。選考終了後に推薦書以外の書類の返却を希望される方は、返信用封筒(宛先記入、切手貼付)を同封して下さい。なお、選考過程において研究に関するセミナーや模擬講義を行っていた場合があります。

応募期限:2004年9月30日(木)消印有効

着任時期:2005年4月1日(金)

書類送付先:〒192-0392 東京都八王子市堀之内1432-1

東京薬科大学生命科学部 事務課長 清野 文子

(「生体高次機能学教授選考応募書類在中」と朱書き、簡易書留にて郵送のこと)

問い合わせ先:東京薬科大学生命科学部 多賀谷光男

Tel. 0426-77-7496、Fax. 0426-76-8866、E-mail: tagaya@ls.toyaku.ac.jp



大学院生募集
東北大学大学院
医学系研究科生体機能学講座

修士・博士課程 <http://www.med.tohoku.ac.jp>

医化学分野

■細胞内カルシウムストアの構造と機能

教授 竹島 浩

FAX:022-717-8090

E-mail: takeshim@mail.tains.tohoku.ac.jp

<http://medchem.med.tohoku.ac.jp>

細胞内ストアである小胞体からの Ca^{2+} 放出は、筋収縮・神経可塑性・細胞増殖など多彩な生理機能に寄与しています。興奮性細胞を中心に、小胞体の分子構築やその機能調節の解明を目指した研究を遂行しています。また、中枢系に存在する未知の情報伝達に着目した研究も手掛けています。

細胞生理学分野

■蛋白の動的挙動と細胞機能

教授 丸山芳夫

FAX:022-717-8098

E-mail: ymaruyama@cellphysiol.med.tohoku.ac.jp

細胞膜およびオルガネラ膜に存在する蛋白の機能を解析しています。こうした機能性蛋白は、1)膜輸送の主役である ion channel、2)小胞膜輸送および分泌にかかわる SNARE 蛋白、3)シグナル伝達を司る受容体・G 蛋白、4)細胞内メッセンジャーの target 蛋白を含みます。技術的側面では、1)patch-clamp 電流解析法、2)細胞顕微操作、など習得できます。

生体システム生理学分野

■大脳による行動制御のメカニズム

教授 丹治 順

FAX:022-717-8071

E-mail: tanjij@mail.tains.tohoku.ac.jp

<http://www.med.tohoku.ac.jp/~2sei/>

脳の高次機能、特に行動制御のメカニズムが研究テーマです。霊長類を研究対象とし、大脳がどのように周囲の状況を把握し、意味のある行動を行って、その目的を達することができるか

を、細胞レベルで詳しく調べます。

分子薬理学分野

■分子から生体までの構造と機能

教授 柳澤輝行

FAX:022-717-8065

E-mail: yanagswt@mail.tains.tohoku.ac.jp

<http://www.pharmacology.med.tohoku.ac.jp>

イオンチャネル(特に K^+ , Ca^{2+} チャネル)、受容体(GPCR)、酵素(低酸素ストレス関連)の分子構造と機能を極め、循環器系・神経系・代謝系疾患治療の新薬開発までを目指しています。

細胞薬理学分野

■分子から個体に至る統合的薬理学研究

教授 谷内一彦

FAX: 022-717-8060

E-mail: yanai@mail.tains.tohoku.ac.jp

<http://www.pharmacology.med.tohoku.ac.jp/cellular/frame1-j.htm>

分子から個体に至る機能について薬理的手法を用いて統合的に研究する。テーマは大きくわけて以下の3つです:(1)ヒスタミン関連受容体・酵素の分子薬理学的研究、(2)遺伝子改変マウスや小動物を用いた神経薬理学的研究、(3)PETを用いた分子標的イメージング法の基礎開発とヒトへの応用(21世紀COE「バイオナノテクノロジー基盤未来医工学」)

医療薬学分野

■生体分子相互作用解析

教授 後藤順一

FAX:022-717-7525

E-mail: jun-goto@pharm.med.tohoku.ac.jp

<http://www.pharm.med.tohoku.ac.jp/>

新規プロテオーム解析手法、高精密分子認識法を構築して、生体内分子間の相互作用を解析し、情報伝達の様相を分子レベルで把握すると共に、病態、病因の解明と新たな医薬品創製を目指す。

出願期間

平成16年8月2日(月)から8月10日(火)まで(土、日、祝日を除く。)

学力検査

平成16年9月9日(木)

詳細は医学系研究科教務係

Tel:022-717-8009 まで

お問合せ下さい。

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1

東北大学大学院医学系研究科・教務係



独立行政法人 情報通信研究機構

【募集職種】研究職員

【募集人員】若干名

【専門分野】情報通信部門 (通信ネットワーク、(情報通信)ヒューマンコミュニケーション)

無線通信部門 (無線通信システム・電磁環境、宇宙通信システム・衛星測位)

電磁波計測部門 (地球環境計測、宇宙天気予報、標準周波数・標準時・高精度時空計測)

基礎先端部門 (光情報通信、情報通信のための材料・デバイス、生物情報・生体物性)

【応募資格】博士学位を既に有する、あるいは2005.4.1までに取得見込みの方
国籍不問ただし原則として基礎的な日本語の読み書きと日常会話ができる方

【着任時期】平成17年4月1日

【提出書類】訪問票(指定様式・写真添付)、研究経歴書(要約を含む)、論文リスト(誌上発表及び口頭発表別)、主要な研究業績(著書あるいは論文3点程度、抜き刷り・コピー可)

【応募締切】平成16年9月1日

【送付先/照会先等】〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1

独立行政法人情報通信研究機構 総務部人事室人事グループ宛

(封筒に「研究職員公募」と朱書き、郵送すること)

E-mail jinjig@ml.nict.go.jp TEL 042-327-7625

詳細は <http://www2.nict.go.jp/so/f463/nict2005/2005kobo.htm> をご覧下さい。



大阪大学大学院医学系 研究科、細胞・生体機能

シミュレーション

プロジェクト

「疾患病態・治療薬作用の
モデルシステムの開発」

ポスドク(助手相当)募集

【研究分野】イオンチャネルに関する機能的・分子生物学的・計算科学的研究. 具体的には (1)パッチクランプ法やアフリカツメガエル卵母細胞発現系を用いたイオンチャネル電流の電流解析, (2)分子生物学・生化学・構造生物学を駆使したチャネル蛋白質の構造機能連関の解析, (3)統合的な生理機能を理解するためのコンピュータ・シミュレーション, など

【応募資格】博士号取得(または取得予定)者で、新しい研究分野を開拓しようという意欲のある人. パッチクランプ法の経験などは必ずしも必要ありませんが、遺伝子工学の経験などが役に立つ研究内容です.

【勤務地】神戸ポトアイランド地区 神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター

【待遇】大阪大学の規定による.

【提出書類】(1)履歴書(写真付き), (2)研究業績リスト, (3)現在までの研究の概要と今後の抱負, (4)推薦者2名の氏名, 所属機関, 連絡先, (5)書類選考結果の連絡先

【応募締切】特に設定しないが、早めに応募して下さい.

【採用時期】平成17年4月より(平成16年9月より可能), 各年度更新, 平成19年度まで.

【提出先・問い合わせ先】〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2 大阪大学大学院医学系研究科 情報薬理学(薬理学第2)講座 倉智 嘉久

TEL: 06-6879-3512 FAX: 06-6879-3519

E-mail: ykurachi@pharma2.med.osaka-u.ac.jp

そ の 他

神経科学ニュース、
神経科学学会ウェブサイトへ
の記事の掲載について

学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構ですのでお送りください。

1. 原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。

(a) 受付可能なファイル形式は Word(2001 以前)、EG Word(11 以前)、Kacis Writer です。それ以外のにも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作成に用いたアプリケーションに関わらず HTML, rtf ファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。

(b) 画像ファイルは PICT、JPEG または TIFF ファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。

2. 校正は行いません(お送りいただいたファイルをそのまま利用します)ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。

3. ニュースへの掲載は1回のみとさせていただきます。

神経科学ニュース
電子版パスワード

本ニュースの電子版のダウンロードには UMIN のパスワードが必要です。皆様方の会員固有の user ID、パスワードを入力してください。半角で、大文字小文字を区別して、入力してください。

編集後記

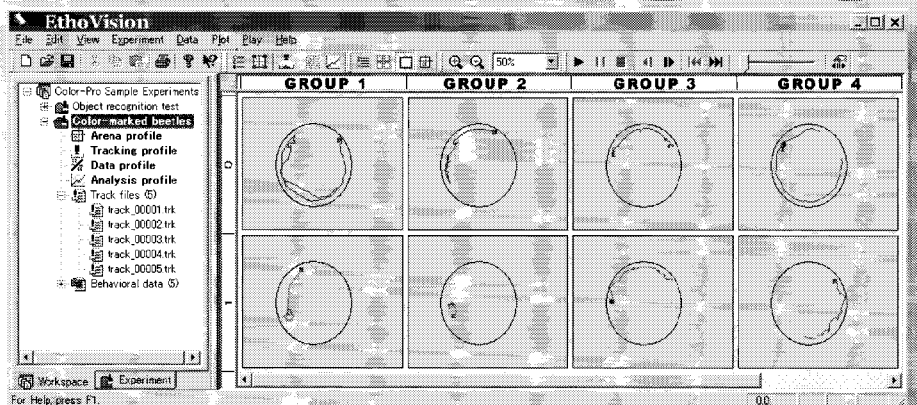
梅雨明けが待たれる今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。第 27 回日本神経科学大会・第 47 回日本神経化学学会大会合同大会は、大会長の村上先生・遠山先生をはじめとする諸先生方のご努力により着々と準備が進んでおり、プログラムも決まり、近日中に発表の日程の連絡が届くとのことです。さて、Neuroscience Research 誌の 2003 年の IF 値が 2.2 に上がり、Molecular Brain Research や Neuroscience Letter よりも高い値となったというニュースが掲載されております。大変喜ばしいことであり、編集主幹の津本先生をはじめ、査読者、Receiving Editor の諸先生方の地道なご努力に敬意を表します。質の高い論文を投稿するとともに、Neuroscience Research 誌の論文を多く引用するように努めることで、IF 値を一層上昇させ、雑誌の評価を高めることに貢献することになります。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。また、神経科学ニュースに関して皆様からの記事、アイデアなどお待ちしておりますので、こちらもよろしくお願い申し上げます。(狩野記)

発行：広報委員会
村上富士夫（委員長）
狩野方伸（ニュース編集小委員会委員長）
蔵田 潔（電子化推進小委員会委員長）
白尾智明（ホームページ担当小委員会委員長）

ノルダス

自動行動追跡・解析用ビデオ・トラッキング・システム

エソビジョン3.0



エソビジョンはこんな装置です

- ◇例えば16個並べたケージにそれぞれ2匹ずつのラットを入れ、その32匹のすべてを追跡したい…。エソビジョンはこんな実験にパーフェクトに対応するビデオ・トラッキング・システムです。各個体の移動距離・速度、軌跡の形状、特定エリアでの滞在頻度・時間、レイテンシーなどの解析はもちろん、ソーシャル・インタラクションとして接近、回避、各個体間距離まで解析します。特に「数をこなさねばならない実験ルーティン」を力強くサポート。煩雑な作業はすべて自動化できます（上記はすべてエソビジョン・プロの仕様です）。
- ◇ケージはもちろん、プラスメイズ、ラジアルメイズ、ウォーターメイズ、オープンフィールド等すべての実験系に1台で完全対応します。主要な実験系には、サンプル・プロトコルを標準装備。ビギナーの方でもすぐにルーティンで使いこなせます。

さらに、格段に進歩した「バージョン3.0」では…

MPEGをはじめとするメディアファイルを映像ソースとして利用可能。これには実に多くのメリットがあります。

例えばDVDには最長で5時間もの映像を保存することができます。しかも映像のアクセスはほとんど瞬時。従来のテープ類に比べ、使い勝手・保存性に圧倒的に優れています。

メディアファイルを使用すれば、「早送りデータ取得」が可能になります。しかもテープのように時間情報が失われることはありません。パワフルなPCを使用すれば、例えば連続24時間分のデータを数時間で取得完了。

*1. エソビジョンの完全な機能実現にはUSBキーが必要ですが、これがなくても「データ取得」以外のすべての機能を使用することができます。

さらにあります。従来、必須だったA/D変換ボードが不要です。これは、ノートパソコンでもデータの取得が可能、という画期的な事実を示します。

ノートが使える。しかもエソビジョン自体にコピー制限はありません*1。そしてエソビジョンは、1つの実験プロジェクトの内容をたった一つのファイルに格納することができます。これを例えばネットワーク上に置けば、メイン・システムの所在に拘束されることなくどこでもデータの取得・解析が可能と言うことです。さらに複数のPCで解析を分担、などの離れ業も。

1台で、複数台の活躍。エソビジョンは、次世代の実験形態を先取りします

まだまだあります。従来からご要望の高かった、TTLパルス・ジェネレート機能を追加。例えばラットが特定エリアに入ったとき、フィードを起動させるためのトリガパルスを出力できます。

従来はどうしても観察者の手を借りねばならなかった強制水泳実験。しかしエソビジョン3.0は独自のアルゴリズムを採用し、ラットのボディサーフェスの変化から「静・動」を自動判別し、カウントします。

詳しい資料のご請求・デモンストレーション等をご相談ください。



ノルダス社日本総代理店

ショーシンEM株式会社

〒444-0241 愛知県岡崎市赤浜町蔵西 1-14

TEL : 0564-54-1231 FAX : 0564-54-3207

www.shoshinEM.com info@shoshinEM.com

先端のイメージング技術で細胞機能を解析

浜松ホトニクスは、ビデオマイクロスコピー技術を核に各種細胞機能解析ツールをラインアップしています。

HAMAMATSU

50th
Anniversary

浜松ホトニクスは、高感度で高解像度なイメージングデバイスを軸に、ライフサイエンス分野におけるイメージプロセッシングの技術開発を推進してまいりました。これからも新しいアプリケーションに対応した細胞機能解析ツールを開発してまいります。

新製品

3CCD-FRETイメージングシステム AQUACOSMOS/ASHURA

FRET観察に適した冷却3CCDカラーカメラを採用。C/Y/Rチャンネルに独自の機能を持たせFRETの検出効率を向上。理化学研究所との共同開発で製品化したアクセプタブリーチング機能を搭載。

ファンクショナルセルソーティングシステム FDSS/IMACS

蛍光プローブを用いた生細胞における各種イオンや蛋白質解析などのカイネティクス解析が可能。マイクロプレート中の細胞の反応を単一細胞レベルで自動解析。ヘテロジーニアスな系で威力を発揮。

1分子蛍光イメージングシステム AQUACOSMOS/1分子蛍光イメージングシステム

1分子の挙動を高感度に画像化、最長14時間のデジタルイメージングのリアルタイム録画を実現。多彩な軌跡解析機能を搭載し、画像化から解析までトータルシステムを提供。

蛍光タイムラプスシステム AQUA-C・IMAGING

生きた細胞を顕微鏡下で長時間にわたり観察する目的で開発された画像取得装置。明視野画像から蛍光画像まで長時間にわたり取得可能。3次元から6次元タイムラプスまでシステムをラインアップ。

細胞機能解析システムシリーズ

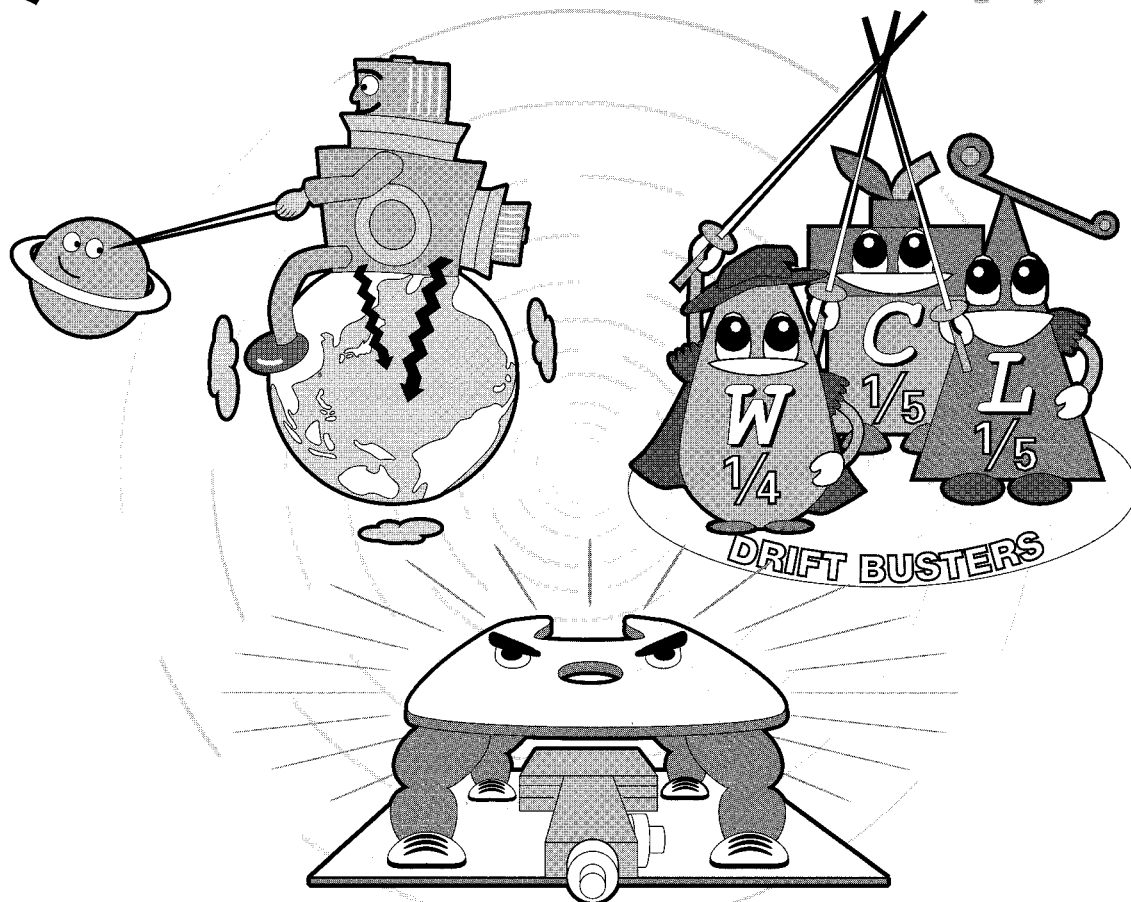
浜松ホトニクス株式会社

システム事業部 特機営業部 〒430-8587 浜松市砂山町325-6 TEL (053) 452-2148
E-mail salesi@sys.hpk.co.jp Web site <http://www.hpk.co.jp>
東京支店 (03) 3436-0491 大阪営業所 (06) 6271-0441 仙台営業所 (022) 267-0121

<http://www.hpk.co.jp/Jpn/products/SYS/BioJ.htm>

☆製品Web siteからは、カタログのPDFファイルをダウンロードすることができます。ぜひアクセスしてください。

製品
Web
サイト



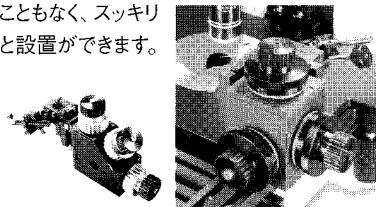
安定が一番

長時間のパッチクランプで、
細胞にダメージを与えないことを最優先に考えました。

手動三次元マイクロマニピュレーター

NMN-21/25

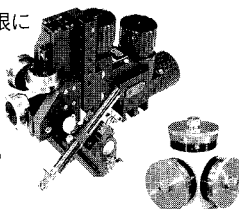
手動でありながら手の振動を針先に伝えない独自の構造を採用。電気コードやチューブがないので、電気障害などに悩まされることもなく、スッキリと設置ができます。



三次元水圧マイクロマニピュレーター
梃子式

MLW-3

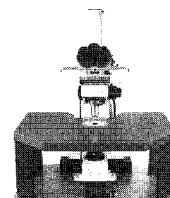
微動は400μmだけ。圧力制御を膨張係数の少ない水に、カートリッジを1:5タイプに、さらにテコの原理を応用した新機構の採用でドリフトを最小限にしました。ドリフトの発生が従来の1/100+αに抑えられます。



アイソレーションテーブルシステム

ITS-N/O/Z/Z2/L

各種顕微鏡に対応したアイソレーションシステムです。剛性、耐震性・安定性に優れ、複数のマニピュレーターを自由な位置にセット可能。大型ハンドルを装備したXYステージは、重たい顕微鏡もスムーズに移動させることができます。



詳しくは当社担当までお問い合わせください。

インターネットホームページなら、他の各種製品の詳細も手にとるように判ります。 <http://www.narishige.co.jp>

株式会社 **成茂科学器械研究所**

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4丁目27番9号 TEL.03-3308-8233 FAX.03-3308-2005

e-mail: sales@narishige.co.jp